自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	質の高い介護の為にしっかりとした理念が作られており、共有に努めている。	事業所の理念をホールに掲げて、地域やご家族など外部にも公開しています。毎月の会議では提供しているサービスについて振り返り、理念がケアに活かされているかを確認しています。職員は理念が書かれたメモをポケットに入れています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加やさまざまな形で地域の皆様とコミュニケーションをとり交流が行われています。	地域の一軒として行事の手伝いや神社の掃除など地域活動に積極的に参加しています。年数回、事業所通信「じょんのび号」を回覧板で地域の各家庭に回し、活動などを伝えています。散歩や買い物など外出の折には住民と挨拶を交わしたり立ち話もします。散歩の途中で花や野菜等を頂いたり、届けてくれる方もいます。踊りや歌など様々のボランティアの訪問など地域の人達とふれあう機会は沢山あります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の事についての質問など議題に入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、現状報告･行事計画参加の報告を行っている。また、外部の方々の意見を聞き積極的に取り入れる努力をしている。	会議は定期的に開催しています。事業所からの報告を受けて参加者から質問や意見、要望を伺い、地域や行政からの報告などもあり双方向的な会議となっています。頂いた意見等をサービス向上に活かしています。誰でも読むことが出来るように議事録は事業所玄関に掲示しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入っていただき意見を聞いている。わからない事については、電話等で連絡し指導を受けている。	事業所は必要があれば積極的に市の担当者と連絡を取っています。担当者は毎回、丁寧な説明や親身になって相談に乗ってもらえています。また、担当者からは様々な情報がメールで送られてきます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊の強い利用者様について車椅子にて対応しているが家族の同意を得、月1回の見直しを行い時間の短縮を検討している。	身体拘束に関する研修が事業所内で行われており「拘束のないケア」に努めています。視力障害のある入居者に対しご本人、ご家族に説明した上で時間を区切り、車椅子対応していますが毎月のユニット会議で対応の見直し、代替方法を話し合い、現在は一時的な車椅子対応となっています。国が示している「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の徹底理解に取り組んでいます。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市のマニュアルを取り寄せ職員研修を行った。また、施設のマニュアルを作成している。	虐待行為を学び身体的、心理的虐待、ケアの放棄など具体的な行為を理解しています。サービス提供時にそれらの行為が行われないよう事業所全体で意識しながら取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修に予定しているが、まだ行っていない。講師は決めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項・利用契約・運営規定の説明を行っている。また、半年に1回の家族カンファレンス時に、改めて家族・利用者に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族カンファレンス時にご家族代表又はご家族から意見を出していただき、運営に生かしている。	ご家族等には折に触れ事業所に対する意見、要望などありますかと声を掛け、何でも言って貰えるよう心がけています。頂いた意見、要望は検討し運営に反映させています。意見箱、要望箱を玄関に設置してありますが活用されたことはなく、直接話されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と個々に話をする機会やミーティングで意見を出しやすい雰囲気を設けるようにしている為、多くの意見を聞き入れられる状態になっている。	管理者は現場に出ていますので職員とは何時でも話したり聞いたりする機会があります。ユニット会議は夜勤者を除く全員が参加し2時間余りの話し合いや研修会が行われています。職員は活発に発言し意見や提案が出されています。そこでの意見等は更に検討され運営に反映させています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	就業規則など労働条件に関する見直しが行われようとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の様々な研修を受ける機会は積極的に取り入れる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話等での意見交換はあるが、職員交流の実践は行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時ご家族･ご本人に細かく施設の説明をしている。入所されてからも不安の無い様に居室を訪問を行い様子を見ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に不安を無くす様、ご家族の希望される事を第一に考え、施設の対応の仕方を納得のいく様にお話し、家庭の延長として考えていただける様お話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に2週間の暫定プランを提示し、必要であれば軌道修正してご家族･ご本人共に話し合い日常生活を把握している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と同じ存在という意識を全職員が共有し、利用者と一緒に笑い、悲しみを共にする信頼関係が築かれている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会を大切にゆっくりと話し合える環境作りを行っている。面会の少ない家族には連絡を取っている。6ヶ月に1度の家族カンファレンスを大切にしている。	ホームでの様子は定期的に手紙で報告し又、日常的なことでも必要があれば随時、電話でご家族に報告や相談しています。面会時には日頃の様子を伝えています。今の様子を伝えることでご家族と情報を共有し、ご本人を一緒に支える協力関係を築いています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、サークル仲間などの方々が施設にいらっしゃった時はまた来てくださるようにお願いし、入所間もない方にはご家族にお茶飲み友達を連れて来ていただけるよう説明をしている。	本人の生活歴や生活習慣、馴染みの場所や人などの情報を把握しています。入居後も馴染みの場所や馴染みの人との関係が継続できるようご家族の協力を得ながら支援に努めています。面会時には通院のついでに食事や買い物など水入らずの時間を過ごしたり、定期的に自宅に迎えているご家族などそれぞれ本人との関わりを続けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠かったり、意思疎通が出来ない方達には職員が橋渡しをしている。リビングの席も楽しく過ごせる様に席替え等を行って様子を見ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方には病院へ行った際に顔出しをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別処遇を基本にしているので、ご家族の思いも入れ対応している。困難な方については、他利用者の迷惑にならない限り、自由に生活してもらっている。状況はしっかり把握している。	日々、職員は声を掛けたり、会話や呟きなどから一人ひとりの思いや意向に関する情報の把握に努めています。意思表示が難しい場合でも表情や行動から理解したり、情報をもとに本人本位に検討しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の生活の延長を基本としているので、ご家族からの情報を聞き、無理のないように支援している。	入居前の生活の様子や元気な頃の様子やこだわり、習慣などをご家族等から情報を得ています。面会に見えた友人の話から情報を得たこともあります。個別の情報は事業所オリジナルシートに記録し全職員が情報を共有できるようになっています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議で、3ヶ月に1回は担当職員が状況説明をし、カンファレンスを行っている。皆で意見を出し合い検討されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当がアセスメントをし、計画作成者とプランを作成、家族カンファレンスを行い実行に移している。随時、関わる職員の意見も聞き出し、必要があればサービス変更も行い、家族に同意を頂いている。	介護計画は全職員が関与し作成されています。半年毎に見直しが行われていますがご家族が参加しています。遠方で参加できないご家族にはFAXや郵送で介護計画書を送り確認やサインを頂いています。評価は3ヶ月毎行っています。状態や移行が変われば見直しを行い現状に沿ったものに作り変えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、業務日誌、申し送りノートに日々の様子を記録、情報の共有を行っている。又、カンファレンスの際に、実践、見直しを話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助など、本人や家族の要望に対して、きめ細やかに柔軟な対応が行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を大切に思っているので、行事参加して、楽しみの場を広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望している医療機関で受信を行っている。また、協力医が主治医の場合、月2回往診を行い個々の状態や要望に応じた対応をしている。	受診の付き添いは原則として家族にお願いしていますが職員が付き添うこともあります。受診時には必ず、情報提供書を作成し医療機関に状態を伝えています。受診結果は医師からの説明を家族から口頭で確認しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフは確保していないが、不安があれば、協力医の看護師に必要時に相談、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されると週1回はお見舞いに行き、退院出きるかどうか等、看護師･ケースワーカーと情報のやり取りがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時は勿論、6ヶ月に一回の家族カンファレンス時には、「看取りは出きません」と話し、了解を得ている。	契約時に事業所の方針をご本人、ご家族に説明し納得していただいています。重度化した場合や終末期についてはご本人の状態を見ながら、かかりつけ医やご家族と相談し医療機関や施設への移動なども話し合っています。職員はご家族の意向を尊重しながらご本人、ご家族に寄り添う支援が行われています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から講師を招き、救急講習会を年1回行っている。	入居者の急変や事故等に対応できるように消防署の協力を得てＡＥＤ, 心肺蘇生法など救急救命法や骨折、誤嚥、意識低下などの対応方法の講習を受けて技術の習得に努めています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は防災訓練を行っている。地域の消防団とも話し合いをし、緊急連絡網も出来ている。	年2回消防署の協力を得ながら昼夜想定の避難･誘導訓練を行っています。同時に消火器の取り扱いや通報訓練も行われています。年2回の消防設備点検、日常的には火元点検、避難経路の確認をしています。定期的な防災訓練の実施、スプリンクラーの設置、IH調理器使用、その他消防法に基づく防災設備が整い災害に対する万全な策が講じられています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの性格や状況を考慮し、声賭けや対応には注意している。	入居者が気分良く過ごすことができるように、さりげない声掛けや対応に心がけています。個人を尊重することや守秘義務について職員らは十分理解し徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今迄の習慣については、ご自分のやりたい様にしていただいている。自己決定できない方については、職員自身が自分だったらどうしてほしいか考えてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	習慣化された日常生活に余裕を持ち、利用者さんのやりたい事を優先する様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の範囲内で、その日の服などを選んでいただいている。散髪もどんな風にするか意見を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や後かたずけなど、本人のできる範囲内で行っている。日曜日は利用者とおやつ作りを行い、敷地内にある畑で野菜を収穫し、収穫の喜びを分かち合っている。	入居者の好きな食べ物や旬の食材を使った季節料理、馴染みの家庭料理などメニューを工夫しています。また、幾つもの小鉢を使うことで一つひとつの料理が分かりやすいようにしています。入居者と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら楽しく食事ができるよう雰囲気づくりにも努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クッキングデポを使用し、栄養のバランスを考慮している。一日の摂取量を記録し、水分を多めに摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夕食後は義歯の洗浄を行っている。状況に応じた介助、見守りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意･便意が無くてもデータを見ながら、オムツ内での排泄を極力少なくする様に努めている。	一人ひとりに応じた支援に取り組みトイレでの排泄ができるよう支援しています。オムツは使わないケアに取り組んでおり、入居者の皆さんはリハビリパンツ、布パンツやパットなど着用して身軽に快適に過ごしています。誘導のたびに排泄はないですが入居者の思いに沿いながら根気良く支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ﾗｼﾞｵ体操や掃除、レクなど体を動かす機会を設け、なるべく自然排便を促すよう努めている。水分摂取量もチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っているが、本人の体調や希望により随時行っている。楽しんでいただけるように、季節の湯なども行っている。	季節の菖蒲湯、柚子湯や入浴剤を入れることで入居者にとても喜ばれています。お風呂は毎日準備して希望の日に入浴できるようにしています。着替えることを嫌がる方はいますが入浴は楽しんで入っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のケースに合った入床時間にしている。睡眠時間も他の利用者に迷惑にならなければ自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管してあり、内容･量など随時確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをとり会話の中で得意だったこと、趣味などを聞き、出切る事は自分の仕事として、生き甲斐としてやっていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブは行事として計画的に実施している。	気分転換や運動のために積極的に戸外に出るようにしています。短い距離でも大変な入居者は玄関先や駐車場で日光浴や外気浴しています。季節に応じて名所や公園、周辺の池めぐり(蓮や菖蒲などのある池)などへ計画的に出かけています。本人の希望があればご家族とも相談しながら個別の支援も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から、おこずかいとしてお金をお預かりしている。小物、薬など必要な物はそこから出金し、帳簿管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて、自由に電話をお使いできる状況に努めている。また、手紙の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手すぎる色、飾りを装飾しないよう日常生活に近い居住を志している。温度･湿度調整も季節ごとに配慮を欠かさない努力をしている。	食堂兼居間で一日の多くを入居者は職員と一緒に調理の下ごしらえを手伝ったり、テレビを見たり、貼り絵などの作業をしながら過ごしています。窓には雪避けの板が付いたばかりでいつもと違う雰囲気で外の様子を見ています。廊下の壁には日々のスナップ写真や貼り絵などの共同作品が沢山貼ってあり自分の写った写真を見て会話が進む入居者の姿もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こ上がり、ソファーなどを利用し、外を眺めたり、楽しく会話できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など一人ひとりの個性を生かし、ご家族の意思も取り入れた部屋になっています。	各ユニットには畳の部屋が用意されており、自宅での生活スタイルが続けられるよう配慮されています。馴染みの物を自宅から持ち込んだり、入居後に作った絵や折り紙などを貼るなど本人が落ち着いて過ごせるように工夫されています。家族に見せるためにも自分の作品を沢山貼ってある居室もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの張り紙などの工夫や、鍵の閉め忘れ等無い様に気を配っている。玄関ブザーもその1つである。		